

負の連鎖をいかに断ち切るか/行政課題解決セミナー

一組織において長年未解決の問題は、ほとんどの場合、負の連鎖が起きていることが多いのが特徴です。それは、長年未解決の問題の奥底にあるコアの問題が様々な問題を噴出させ、それがさらに次の副作用を引き起こし、それがコアの問る題をより深刻にして行くという構造があるからです。一(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回の行政課題は「子どもの貧困」。埼玉県では、貧困の連鎖を断ち切るには「自己肯定感を育むことが有効である」という見解のもと、子どもの居場所作りに取り組んでいます。その取組の一つとして、Facebookページ「こども応援ネットワーク埼玉」を立ち上げ、子ども食堂をやりたい県民や団体を応援しています。

<https://www.facebook.com/kodomooouen.saitama/>

今後の課題としては、「子どもの居場所を、一過性のものでなくサステナブルにしていくにはどうすればよいか。人材、資金、モノ、場所が不足すると、成り立たなくなる。地産地消で必要な資源を調達できる仕組みがあればいい。」とのことでした。

ワークショップの冒頭、岸良さんは質問を会場に投げかけました。

・景気がいいのに貧困が増えている。なぜ？そして、「子ども食堂の数が増え続けている。みんな頑張っているのに貧困問題は良くならない。むしろ問題が大きくなっている。これは、悪循環が存在するから。悪循環を明らかにし、コアの問題を特定し、そこに集中しなければ、解決しない」とのこと。

まず、望ましくない現象をつなげて、悪循環を明らかにしました。その中の「親の貧困が子どもに連鎖している」をコアの問題として特定しました。次に、その問題を解決するためにクラウドを作成。子どもの

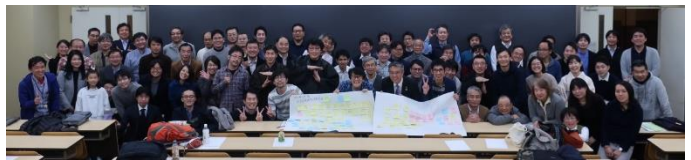
居場所を作ることの要望は、「生きる力を子どもが身につける」ことだとわかり、その解決策として「子供が社会貢献をする場を作る」とアイデアが出てきました。実は、子ども食堂運営者は、子どもとのやりとりの中で「いきがい」を得ており、子ども食堂にいる子どもは社会貢献をしていることとなります。子ども食堂を社会貢献の場と位置付け、アイデアをプラスするだけで良さそうです。アイデア出しでは、名称を子ども食堂からKODOMO株式会社にする、社員の子供は自分で名刺を作り渡す、ボランティアする大人の求人を子供がする、地域の困りごとを集めて解決する、など、「子供がこんなことしたら凄いな」とすごく盛り上がりました。今後、具体的にどのよう取り組みになっていくのか楽しみです。

《今回の学び》

「子ども食堂」は“子どもがご飯をもらいに行くところ”というマイナスの印象が強く、そこに行く子ども達は「食べさせてもらっている」と感じてしまい、この状態では自己肯定感が育まれないと懸念してました。「KODOMO株式会社」に名称変更するというアイデアは、名前を変えるだけで子どもが積極的に社会や地域に貢献できる場とプラスに印象づけられ、そこに通う子ども達は「生きる力を学ぶ」ので貧困の連鎖を断ち切る事ができると感じました。

《他の発表》

- ◆9/15セミナーのワークショップのフォロー『京都きものルネッサンス』の取組の広がり
- ◆国際カンファレンスの共有
- ◆事例発表『行政のブレークスルーを体感せよ!』ソフトバンク、埼玉県



講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC(Theory Of Constraint:制約理論)をあらゆる

産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

全体最適の行政マネジメント研究会について

・全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず 知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・次回のセミナーは、2月9日(日)に、東京で開催します(参加費無料)。当会のWEBサイトかQRコードからお申込みください。

